

3 番 和 田 皆様、おはようございます。それでは、一般質問を始めさせていただきます。

受付番号1番、議席番号3番、和田成功。

件名「さらなる地域活性化を」。

昨今、少子高齢化や価値観の多様化により、行政への町民ニーズは、多様化、高度化している。

一方、生産年齢人口の減少で税収入は減少傾向にあり、行政だけでは対応できない課題が増えてきている。さらに、コロナ禍以降、人々の暮らしは非対面、非接触の生活様式に一変しており、住民コミュニティの希薄化がさらに進行することを危惧する。

そこで、地域活性化と行政サービスの向上のため、持続可能なまちづくりが重要であると考え、質問する。

1、山北駅周辺のにぎわいの創出に努めていると思うが、その成果についてどのように捉えているのか。また、今後の地域活性化の計画は。

2、観光資源活用は地域振興において重要であると考え。

①D5270において、地域活性化を視野に活用していくべきと考えるが、今後の計画は。

②新しくできた遊歩道が一般公開された洒水の滝を地域活性化においてどのように活用していくのか。

以上です。

議 長 答弁願います。

町長。

町 長 それでは、和田成功議員から「さらなる地域活性化を」についての御質問をいただきました。

初めに、1点目の御質問の「山北駅周辺のにぎわいの創出に努めていると思うが、その成果についてどのように捉えているのか。また、今後の地域活性化の計画は」についてであります。山北町第5次総合計画後期基本計画では、山北駅周辺のにぎわいを創出するための施策として、魅力ある夕市の開催と、朝市の開催支援を位置づけ、実行委員会を中心に取り組んでいただいております。コロナ禍であったことや地元商店主らで組織されていた商店振興

会の解散などもあり、夕市や朝市について、令和2年度、3年度は開催には至りませんでした。町でも積極的に支援してまいりたいと考えております。

ほかの施策としては、空き店舗の活用の促進があり、近年は飲食店を中心に複数の店舗が創業されており、にぎわいの創出につながっていると考えております。

その成果をどのように捉えているかにつきましては、空き店舗の活用として、複数の店舗が創業されている実態もあり、成果は出てきていると考えております。

一方で、イベント開催については、新型コロナウイルス感染拡大と長期化という事態となり、町民への感染拡大の防止という観点から予定していたイベントの開催に至りませんでした。

今後の地域活性化の計画については、現時点では具体的には定まっておりますが、引き続き山北駅周辺のにぎわいの創出、駅前商店街の振興のために必要な制度は調査したいと考えております。その前段として、関係する皆さんがどの方向を目指していくのかというところを話し合っていくことが重要だと考えており、商工会の上部団体による様々な制度等もございますので、商工会をはじめとした関係機関と検討を重ねながら、具体的な活性化策を見いだしていきたいと考えております。

次に、2点目の「観光資源活用は地域振興において重要であるとする」について、1番目の御質問の「D5270において、地域活性化を視野に活用していくべきと考えるが、今後の計画は」についてであります。D52の活用として、毎月実施している整備点検運行、鉄道資料館等の運営、イベント開催時の運行等を実施しておりますが、コロナ禍において、愛好家など多くの人が集まってしまう状況を避けるため、現在、整備運行の日程は非公開としております。

今後の計画についてですが、コロナの先行きが見えた際には、日本で唯一動くD52として、改めて整備運行やイベント開催時の運行をPRしていきたいと考えております。

軌道延伸につきましては、令和4年度の当初予算特別委員会でも御説明しているとおり、鉄道公園内の東側に誰もが遊べる新たな遊具を設置させてい

ただき、軌道を後方に延伸していきたいと考えております。

軌道延伸後のD52の活用方法について、整備関係者と意見交換を行い、新たな運転手を育成し、専門のスタッフを配置した上での運転体験や乗車体験により集客をすることや、整備運行の動画配信などを実施し、将来的には、これらを体験型のふるさと納税返礼品に関連させていきたいと考えております。

次に、2番目の御質問の「新しくできた遊歩道が一般開放された洒水の滝を地域活性化においてどのように活用していくのか」についてであります、遊歩道の一般開放により、18年ぶりに洒水の滝の雄姿を間近で見ることができるようになりました。先日も地元の方から、休日には多くの観光客が訪れて店舗などにもぎわっているとの話を伺い、私自身もうれしく思っているところであり、お迎えするためのベンチや案内看板の設置といった整備を続けております。

また、令和4年度地方創生推進交付金対象事業の県西地域活性化プロジェクトの展開事業の中で、洒水の滝遊歩道リニューアルPR事業が事業採択されたため、観光協会が実施する、洒水の滝PR事業補助金をエントリーさせていただきました。

内容としては、ドローン撮影やパンフレット作成を行うというものですが、森林セラピーコースとも関連した、自然体験型観光として積極的にPRし、誘客を図っていきたいと考えております。また、ドローンの動画は観光協会などで放映するほか、他市町村のイベントに参加し、会場で動画を放映し、情報発信を行うなど、引き続き関係人口の増加に取り組んでまいりたいと考えております。

議 長 3番、和田成功議員。

3 番 和 田 それでは再質問をさせていただきます。

回答書のほうにありました、夕市・朝市の連携ですかね、その辺についてコロナということで2、3年度はなかなかできない状況だったと思いますけれども、4年度以降、今後どのような連携というか支援を考えているのか、その辺をちょっとお聞かせ願います。

議 長 商工観光課長。

商工観光課長　　まず、夕市につきましては、駅周辺魅力づくりの意見交換会、こういった中で、実際に商店の方々、あと商工会の関係者、意見を伺いながら実際どのような形ができるか、そこを踏まえながら支援をさせていただきたいと考えております。

また、朝市については、今、既に実行委員会という形で実施されております。町に与えられている依頼内容は広報周知という形ですので、こちらにつきましては、継続して対応させていただきたいと思っております。

以上です。

議　　長　　和田成功議員。

3 番 和 田　　今、お答えの中で朝市に関して、広報の支援をしているというところで、連携というか支援をしてないわけではないでしょうけど、さらなる一手、もっと連携を深めて、よりにぎわいをつくるような、活性化するようなことも、今後継続的に検討して、連携を深め、進めていっていただきたいというふうに思います。

続きまして、複数店舗が、商店街、空き店舗の活用として、複数の店舗が創業されているという実態があるという。数値的なもの、細かいところで申し訳ないですけど、その辺が分かりましたら御説明願います。

議　　長　　商工観光課長。

商工観光課長　　山北駅周辺において、実際に開業、また創業された方々ですが、一応、主に七つの店舗があります。その中に、5店舗ほどが飲食関係の店舗となっております。

以上です。

議　　長　　和田成功議員。

3 番 和 田　　空き店舗活用に関して、町として何らか関わってきたのか。

例えば、町が窓口になってとかということなのか。それとも町に関せず開業し、創業された方が直接そこに行って、開業の交渉なり、いろいろ段取りを踏まれたのか、その辺についてはどういう状況でしょうか。

議　　長　　商工観光課長。

商工観光課長　　主に創業関係につきましては、窓口は商工会のほうで動いていただいております。当然、創業にも資金等が必要になりますので、その資金繰りの

関係もございまして、商工会員になっていただいております。

町はそこの後、出来上がった際には、その周知などに協力をする、そういった形で動いております。

以上です。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 専門的などところで言えば、商工会が窓口というのは分かるんですけど、やっぱり町外の方が来て、町に魅力を感じて空き店舗を活用して、創業したいというようなときに、町として何ができるかという、なかなか制限があって難しいかもしれない、窓口を、町がそこを担うことによって、そして商工会と連携して、また地域と連携して、創業者支援、国とか県のその辺のところも充実させて、今後取り組んでいくべきではないかと考えますけど、その辺についてはどう考えるでしょうか。

議 長 町長。

町 長 空き店舗については、私も実際に空き店舗を使いたいという人から、何件か当たりました。しかし、空いていないと。貸してくれないということで、どうしてもそこが難しかったというようなことを経験しました。

ですから、一般的には、我々の目で見ると、随分空いてて、あそこどうしたらいいというようなことはあるんですけど、実際にお持ちの方が貸す気がない、あるいは何らかの別の利用をしているというようなことでございますと、なかなかあそこのところに活用するというのが、現実的には難しいんだなということが、実際に私も探して、かなり当たりましたよ。あそこだけでなく。もう、いろんなところを当たりましたが、なかなか何かそういうね、貸していただける店舗が少ないということは、実際に当たってみて、実感したところでございます。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 今、答弁いただいて、空き店舗も当たって、なかなか難しい状況分かります。

都市部だったら、空き店舗だけという状況でしょうけれど、地域的に店舗兼住宅になっているような状況でね、お住まいになっている方がいる中で、店舗だけ貸してくださいというのはなかなか難しい。そういう課題は見えて

いるとは思いますが。その辺をいろいろ調査研究していただいて、今後、にぎわい、駅周辺のみならず、創業支援とかそういったところも含めて、町がうまく地域と連携して、活気が戻るような、そんな取組を進めていっていただきたいと思います。

続きまして、今後の地域活性化の計画について、現時点では具体的に定まって、今いないというような御回答がありましたけれど、やはりこういう活性化とかそういったものには明確なビジョンとか、将来こうしたいんだ、ああしたいんだという思いとか、計画をきちっとつくり上げて、それに地域ないし、皆さんが協力していくって、同じ目標に向かってみんなで頑張ろうということをしていかないと、なかなか地域活性化も進まないでしょうし、それを継続、持続させていくというのは、やっぱり難しいことなのかなというところで、やっぱり早急に、具体的にこういうことを、こういう町にしたいんだとか、こういうふうになぎわいをつくっていききたいんだというものを示していくべきだと思いますけれど、これは早急的、早急にとか積極的に計画を具体的に示していくべきだと考えますけれど、その辺についてはいかがでしょうか。

議
町

長 町長。

長 おっしゃるように、10年後、20年後、30年後というような、中期長期的にどういうふうに町をしたいのか、それは単純に行政だけの、あるいは町長だけがこうしたいということで決定するものではございませんけど、しかしそういうものがなければ、やはりそれもなかなか実現しないということも事実でございますので。そういった意味では、はっきりとした方向性だけは、はっきり出していききたいというふうに思っております。

私の基本的な考えは、まず例えば、商店とか何かは、やはりおやりになっている方がどういうふうになりたいのか、それを行政は後ろからサポートし、背中を押していくのが筋だろうというふうに思ってます。

しかし町全体のランドデザインについては、我々に責任があって、どういうふうになりたいのか、そういったことは、これからお示ししたいと。ちょうど選挙にもなっておりますし、そういったことを皆さんにまたお伝えして、御理解をいただければというふうに思っております。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 今、御回答の中でランドデザインを示していきたいというふうな思いを御回答いただきましたけれど、まさに、そのランドデザインを示して、地域の方、今回だと駅周辺ですけど、事業者が主なのかもしれないですけど、それに向かって、じゃあ我々は何ができるのか、こういうことができるんじゃないか。そのためには、やっぱり連携が必要だ、サポートが必要だといえ、そこへやっぱり行政として支援等をしていって、よりランドデザイン、目標に近づくような、そういうことを続けていくと、やはりまちづくりという大きな枠組みには発展していくのかなと。

だから、そういったところを積極的に進めるためには、先ほども言いましたけれど、ランドデザインという明確なものをきちっと示していくというのが、思いだけじゃなくて、きちっと早めに示してもらって、町民、地域の方に理解をしてもらって、一人一人が他人事じゃなくて、みんなが協力してまちづくり、以前から言われている協働のまちづくり、合致すると思うんですよね。そういったところで進めていくと、やはり活気なりというのが生まれて、それでよりよいまちづくりに発展していく。そういうふう考えるので、ここの部分に関しては積極的に進めていっていただきたいというふうに考えます。

続きまして、どこかのところすみません、山北町商工会と連携して、後継者事業継承対策など、事業経営の安定を促進しますというようなことがあったと思うんですけど、現状どういう取組をされているのかというところをお聞きします。

議 長 商工観光課長。

商 工 観 光 課 長 こちらの事業継承承継につきましても、実は魅力づくりの意見交換会などでもお話をさせていただいております。その中でも、中小企業診断士の方も一緒にその場に入ってくださいまして、具体的に、例えば事業承継のような話がございましたならば、そこで、さらに診断士のほうがバックアップに入る。お金のな資金面のほうに関しては、商工会や金融機関のほうに支援をお願いする。そういった体制になっておりますので、こちらについては町も一緒に合同の会議の中で意見を聞きながら、町として必要な支援の

ほうは対応できるようにしていきたいと考えております。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 支援策、体制、対策なんかはきちっと整備されているけど、実際、対象になられて相談とかという実績、その辺についてはどうなっているんでしょうか。

議 長 商工観光課長。

商 工 観 光 課 長 現状で、コロナ禍で意見交換を踏まえた中で、創業もしくは事業承継、そちらのほうに動いたという事例はございません。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 後継者事業継承というのは、なかなか少子高齢化というところもあって難しいところで、事業者単体でどうにかするというのは本当に難しい状況が、今見えてると思うんですよね。そういったところで、行政、直接ではないにしろ、商工会等と連携して支援をしているんだと。安心して相談とか行けるような体制づくり強化をしていって、それにはやはりコミュニケーションなり連携というのが、地域と連携というのもやっぱり必要になってくると思うんで、そういったところを充実させていく方向で推し進めていっていただきたいというふうに考えます。

その辺についてはどうでしょうか。

議 長 町長。

町 長 商店街のところで、いろいろなやり方等があるというふうに思っておりますけども、しかし山北町で、今、実際に商店等で例えば飲食店とか、あるいは旅館とか、キャンプ場とか見えていますと、やはり今やってらっしゃる中で、お客さんがある程度というのは、やはり観光客が主体のところが多いのではなかろうかと。どうしても人口減少少子化の中で、町民を対象に御商売をしようということになると、やはり限られた御商売になってくるのではないかなというふうに思っております。ですから例えば、いろいろな事業系の、例えばガス、水道とか電気とかそういったものは住民対象でいいというふうに思いますけど、飲食とかそういったものに関しては、どちらかといえば、観光客を相手に、あるいはまた町外の人に向かって発信するような御商売でない、なかなか難しいのではないかなというふうに思っておりますんで、そう

いったことも考えていただいて、町として、何がそれに応援できるのか。そういうことを一緒になって考えていきたいというふうに思っております。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 今、町長のお考えを一緒になってやっていきたいというような前向きな御回答いただきましたので、そういう思いを実現していただくとともに、今後も期待しております。

それでは続きまして、2番目の質問の、D5270 軌道延伸について、再質問させていただきます。

当時、動態化するに当たって 2016 年ですかね、D52 の奇跡の復活というような形で、ある程度にぎわい創出につながって、整備運行、そういったものも整備点検運行ですか、そういったものもやられてて、コロナということでなかなか思うように、その辺にぎわいがつくれないような状況は分かりますけど、当時、奇跡の復活と言ったときには、駅前商店街等も唯一動く D52。そこでお買物をしてくださいみたいな、のぼりまで作って盛り上げていたけど、その奇跡はどこにいったのかというような、今現状で。3年前ですか、令和元年に一般質問したときに、後方延伸 25 メーターという回答がありましたけど、その後コロナという、できなかった理由ではないですけど、そんなものがありましたけれど、なかなか先が見えてこない。延伸計画が見えてこない。後方 25 メーターと言ったつきりどうするのかというところが全然見えてこないところで、今年度、予算的に延伸を視野に入れて、鉄道公園の遊具の移設というのが出てきたと思うんですけど、もうちょっと具体的に、今年度こうするというような計画が、延伸計画はこういう段階ですよというようなものがありましたら、御説明願います。

議 長 町長。

町 長 おっしゃるように、当初、日本に 7 台しかない D5270、7 台しかございませんので、その中で 1 台だけ動く D52 ということで、非常に期待をされました。しかし、実際にやってみますと、一つの問題はやはり運転する方が山口県のほうから来ていただくということで、月に 1 回しかできないというようなことの中で、非常に制約があるというようなことになりました。ですから、一番の売りである、動く D52 というような中で、なかなか我々の思うような

動かし方、あるいはまたサービスがなかなかできなかった。

当初から、私は一つの事業を始めたときは、必ずそれに付随する事業をずっと1年に一つずつやっていくことが多分いいんだろうということで、鉄道資料館とか、そういうのをやらせていただいたんですけど、コロナになってしまって、なかなかそのところがうまくいかなかったというふうに感じております。

今後は、延伸することによって山北町の鉄道の関係者の方が運転を習って、そういったOBの方で運転できるような方ができるのではないかとということで、延伸をどうしてもやりたいと。そのためには、前へ持ってくるか、後ろへ持ってくるかということで、やはりいろいろ検討しましたが、後ろのほうに延伸しようと。そうしますと、後ろに鉄道公園の遊具があるということで、今年度は遊具の移設を先にやらせていただいて、それで、5年度以降に、今度は後ろに下げる延伸のほうに取り組みさせていただきたいというふうに考えております。

そして、できれば、その計画の中で様々な人に、何ていうんですか、来ていただくための鉄道ファンの方々にもいろいろな情報発信をしながら、末永く山北町に何度でも訪れていただけるような、そんな取組をしていきたいというふうに考えております。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 今、町長の思いはお聞きしましたが、なかなか進んでいないというか、町民の方も含めて、延伸する、後方に25メートル延伸するということは、ある程度の方が理解してると思いますが、延伸して、その先の活用までが、要は先のビジョンというのかな、そういったものが全くもって、町民の方も含めて理解されてないというか、町側が示されていないところが一番だと思うんですね。そういった部分で、D5270に関して、将来的なビジョン、またこれもそうなんですけど、明確なビジョンをちゃんと示して、そのために後方に25メートル延伸するんだよと。延伸したときには、観光資源として活用する。体験観光とか、乗車体験、運転体験等を含めて、地域の人材の育成等も含めて地域の活性化、そして地域の経済を回す。それが波及して、町内全域にも広がるような経済効果があるような、そういう夢のある、そうい

うビジョンを、きちっと示して、町民、関係者だけが盛り上がるのではなく、町民全体がD52を動かして山北町を盛り上げていこう、活性化させていこうというような、そういうふうな運氣になるように、きちっとビジョンを示すのがやっぱり先だと思うんですよね。そういったところがないと、関係者は、延伸してくれてよかったね、これからどうなるのかなとかという期待はあるのかもしれないですけど、地域的に離れたようなところでは、そこに税金をつぎ込んで、何をしたいのかというのが見えてないというような町民の声も実際聞いております。そういったところで、明確なビジョンをきちっと示して、そのために延伸するんだというのをしていくべきだと考えますけど、その辺についてはどうでしょうか。

議
町

長
長

町長。
はっきりとこうしたいということは、先ほども言いましたように、運転体験や、あるいは乗車体験、あるいは動画の配信、様々なことを、またそれらのことをふるさと納税で返礼品に反映したいというようなことはございますけども、実際それができるかどうかということについては、なかなかやはり専門家の意見を聞いてみないとできない、もしかしたら難しいということもあるかというふうに思っておりますので、そういったいろいろな、実際延伸することによってできること、そして、またそれをPRできるというような、そんなようなことを実際にこれから、まだ遊具の移設だけでございますので、そういったようなことをそれまでにしっかりと考えて、そして皆さんにお示ししたいというふうに考えております。

議

3 番 和

長
田

和田成功議員。
今年度は、遊具移設をする。その先に考えていく。期間が大分あったと思うんですけど、その辺が忙しくてできなかったのか、コロナでできなかったのか分からないですけど、計画をもむとか、ビジョンをつくり上げていくというのは、今までの間、時間大分あったかなと思うんですけど、その辺で、検討なり計画を推し進めるための準備というのはできたのかなと思うんですけど。何か明確に見えてこないというところがちょっと不安にというか、感じるところでございますが。

今の町長の答弁で、ふるさと納税というような、返礼品ですかね、そうい

ったところで体験とかという話がありましたけど。ふるさと納税に関しまして、使い道の中でD52 関連というような、もしくはほとんどが町長お任せという使い道が選択されるようですけど、ふるさと納税型というところなんですけど、延伸費用に関しまして、ガバメントクラウドファンディングというような活用も検討していくべきではないかと思うんですけど、その辺の検討はされているのか、その辺を確認させていただきたいと思います。

議 町 長

町長。

ふるさと納税については、町で今のところ、お節とかローストビーフというようなことで、商品のほうを提供して、ふるさと納税の返礼品としてやっているのが8割、9割。ほとんど9割近くがそういったような返礼品になっておりますけど、将来的には、今、力を入れているその体験型、あるいは町では、今、一つもやっておりませんが、企業版のふるさと納税、こういったこともやっていかなければいけない。

また、今まで、さとふると楽天だけの2社だったものを、ふるさとチョイスとふるなびというような四つの窓口、プラットフォームにもしました。ですから、ふるさと納税に関しては、まだまだ考えるところがいっぱいあるんじゃないかと。ですから、必ずしも例えばD52の体験であるとか、乗車であるとか、そういったことだけではなくて、D52があったおかげで、ゆるキャラ等も二つ作らせていただきました。またそのゆるキャラを使ったいろいろなもの、ほかのPRのほうにも使っていただかせております。

そういったような意味で、ただ単体で鉄道ファンだけでやるのではなくて、総合的な中で、D52も含めて、ふるさと納税、様々なアイデアの中でそれらを広く町内外の人にPRしていきたいというふうに考えています。

議 3 番 和 田 町 長

和田成功議員。

ふるさと納税については、そういう考えでいるということを御回答いただきましたけれど、ガバメントクラウドファンディングといった部分の検討状況はされてないのか、されているのか、その辺詳しいところを御説明願います。

議 商 工 観 光 課 長

商工観光課長。

山北町として、正式な形でガバメントクラウドファンディングという形で

は実施している事例はございません。

しかし、これに近いものが令和元年の台風 19 号で被災をした際に、多くの方から寄付を頂いた内容だとは思っております。あちらにつきましては、マスコミのほうの関係で広報周知をされた結果、寄付金が増えた。

ただ、ガバメントクラウドファンディングを実際にやろうとすると、具体的な計画を示して、将来構想、こうなりますというのをつくり上げる必要性がございますので、現時点ではそういったものが実施できていない状態です。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 ちよっと前後しますが、ガバメントクラウドファンディングについて、ちよっと説明をさせていただきますと、初めから寄付金の使途を明確にし、寄付者は応援したいと思える自治体等を選んで寄付するというようなもので、新たな事業やPR、交流人口の拡大につながる事が予想されているようなものでありますけど、まさにD52 延伸後、魅力的な企画として、きちっとグランドデザインないしビジョンを示して、それに賛同してくれる、その事業に魅力を感じてる方に寄付を募ればいいんじゃないかと。やっぱりそのためには、きちっとした早い段階でのグランドデザインないしビジョンというの示して、延伸計画を進めていって、その後、活用して交流人口なり関係人口等を増やして、活性化を進めていく。そして、魅力的なものがD5270 だと思うんですね。そういったところで、再三言いますが、きちっとしたビジョンを掲げて、魅力あるビジョンを掲げて、こういったガバメントクラウドファンディング等を活用して、ふるさと納税とは違う、その事業に対して全国から寄付を集めるような、魅力的な計画をつくっていただきたいというふうに考えますが、その辺についてはいかがでしょうか。

議 長 町長。

町 長 私も、特にクラウドファンディングのような形でふるさと納税をやっていくことは、これから非常に重要だというふうに考えております。

その中で、必ずしもそれが何と言うんですか、思いどおり集まるか集まらないかという、そういうこともございますし、そういったような中で、様々なクラウドファンディングも考えながらやっていきたい。その中におっしゃるように、D52 なんかは非常にそれにマッチしたものであるというふうに考

えております。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 今、町長から前向きにガバメントクラウドファンディング等、D52 を活用していくような方向で御回答ありましたけど、寄付が集まるか集まらないかちょっと心配だということも分かります。

でも、寄付者が鉄道ファンのみならず、軌道延伸の計画、その先のビジョンというものに魅力を感じるような計画を示していけば、そんな心配は要らないのかなど。寄付が集まるような企画を、今後練って行って示していただきたいというふうに期待しております。

続きまして、3 番目の質問ですか。

新しくできた遊歩道が一般開放された洒水の滝についてですけど、PR、一般開放された週末、結構にぎわったというふうな地域の方の声も、話も聞いております。そういったところで交流人口ですか、観光に訪れてきてくれる方が多いといったところで、観光、ただ来てもらって終わり、見てもらって終わりではないでしょうけど、せっかくなら来ていただいた方に、お金を落としてもらうという表現がいいかどうか分かりませんが、地域にお金が回るような、そういった活動というか、企画というものを地域と連携してやっていると、洒水の滝のある平山地区ないし、その辺が活性化していくというふうに考えられるんですけど、そういった連携とかということではどのように考えられていますでしょうか。

議 長 町長。

町 長 おっしゃるように、今、遊歩道ができて、非常に土日とかそういったときには観光客の方が非常に増えたと。食堂とか、そういったところも今まで人が閑散としてたのが、非常に多く入って御商売になっているということで、非常にありがたいというふうに思っております。

しかしそのままでは、なかなか、ただいいということで、おっしゃるように経済的効果というのがなかなか発揮できないということで、何とか、それを地域の活性化、あるいは経済的にならないかということで、今うちのほうでやってるのは、少しずつですけどベンチを置いたり、広告を出したり、案内板を出したり、様々なことを今やっております。目的としては、滞留時

間をまず長くする。例えば 10 分 20 分で帰るのではなくて、30 分、1 時間、そこにいていただく。それによって、例えば喉が渴けば、何か飲んでいただく。あるいはお昼の時間であれば、食事をしていただく。あるいは、またお土産物を買っていただくようなところも、今のところ、あまりありませんので、そういったものも、これからどういうふうにタイアップしていくか考えていかなければいけないというふうに思っています。

それにはまず、今できることは、取りあえず来ていただく方を増やすこと。そして、その滞留時間をどういうふうを増やせるか。そして、それをまたいろいろな人に PR していく方法を、ドローンとかを使ってでも、広告というんですか、SNS を使ったりして、どのように発信していくかということで、非常に今、期待度が高いということになっておりますので、これらを総動員して、さらに洒水の滝が皆さんに来ていただけるような、そんなようにしていきたいというふうに思っております。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 今、町長のほうからドローン等を使って PR していきたい。SNS 等を活用するのかというところなんですけど。やはり、洒水の滝ならでは、山北ならではというところを、きちっと演出しないと。やっぱりそういうふうな発信をしているところって観光地いっぱいあるんですね。そこに埋もれないような魅力を発信するようなことをきちっとやっていっていただきたいというふうに考えます。

それで、滞留時間は、20 分から 30 分。30 分から 1 時間。滞留時間を延ばしてもらって、飲食店等は効果もあるのかもしれないですけど、それだけじゃなく地域と連携して、週末等は農産物を売ってる方とかは、結構売れるんだといったところで、やっぱり地域と絡んで、地域の方が洒水の滝に関わっていくような。そこで経済効果があって、整備とか維持管理というところに資金が回せるような、そういうことをやっていくと、にぎわいとかそういったところが継続していくのかなといったところで、一つの案としまして、駐車場も同時に整備されたと思いますけれど、その辺が無料でやられているようですけれど、試験的でもいいんで、週末等駐車場有料化というふうなことを試すというのは一つの手かなというふうに考えるんですね。

そして駐車場収入において、周辺整備とか維持というところに充てていくことによって、また、来たくなるような演出ができるのではないかというふうに考えてますけど。その辺についてはどう考えでしょうか。

議
町

長 町長。

長 おっしゃるようなことは一番最初に考えました。今現在、土日に駐車場の問題が出てるということで、今五、六か所、当たらせております。近いところ、なるべく町が造ったところから近いところを、駐車場として可能性があるかどうか、少しまた離れたところはどうなのか。あるいは町で造った駐車場のすぐ左側の林道のほうが可能性があるのかどうか。そういったようなことは、今五、六か所地図上で想定して、実際に担当者レベルでは当たるようにしておりますけど、これから駐車場のことも考えていかなければいけないと。またトイレのことも考えていかなきゃいけない。町ができることは、そういったようなインフラとか、案内板とかそういったことはできる。そして何かを売ったり、経済効果を出すのは、やはり民間にやっていただくしかないんで、そういったことは民間の人たちに、ぜひ出店していただいたり、あるいは、そういったようなことの中でやっていただくことがお互いにその地域を盛り上げていくことになるのではないかというふうに思っております。いろんなことは、私も10から20ぐらいは、できるできないは別として、様々なことは考えて、実際に話もしておりますけど、あそこで直売で野菜を売ってる方たちにも、よくそういうような話で、もうそれをそのまま売るんじゃなくて、加工して売ったらとかそういうようなね。あるいはそれを何か食材にして売ったらどうかとか、そんなようなことも含めながら。また、ちょうどあその常実坊とかというのが、今、NHKで文覚上人の関係がございますので、そういったことも含めながら、そちらのほうにお客さんを誘導する。そしてまた、何ていうんですか、そのよさというんですか、そういったことも皆さんに知っていただく。基本的に、私が考えてることは、新しいものをつくるのではなくて、あるもののよさを見つけていただいて、そして、それをよく見えるところとか、行きやすいところとか、そういったようなことをやるのが行政の力だというふうに思っています。

洒水の滝もずっと昔からありましたし、例えばユーシンブルーなんかも前

からあったわけです。しかしそれが、SNSなんかで人気が出て、大勢の方が行かれると。実際行ってみると、やはり道路がどうだとか、トイレがないとか、様々な問題が起きてくる。

行政が、何とかそれをクリアするというのが我々の役目だろうというふう
に思いますんで、何でもかんでも、新しいものをつくって、そこにお客さん
に来てもらおうとか、そういったことではなくて、もともと山北町こんなに
広くて自然で豊かで、いろいろなものがございます。そういったものをもう
一度、しっかりと見直しながら、滝にしても、50から100あるわけです、山
北には。その中で有名なのは、既に洒水の滝を含めて、四つ、五つというよ
うなレベルでございますので、ほかの滝についても、何らかの形で見直しが
できれば、お客さんが来ていただけるんじゃないかというふうに考えており
ます。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 町長の答弁の中で、新しいものをつくるんじゃなくて、今まである、も
とものもののその魅力を再発見して発信して、それを活用して、地域のにぎ
わいなり活性化というのを努めていくというのは、まさにそのとおりだと思
うんですよね。その辺は魅力、見慣れちゃってて、魅力が薄れちゃっている
のかもしれないですけどね。町外から来る方なんかにしてみれば、すばらし
いというふうに見える。やっぱり演出とか、プラスアルファの部分。先ほど、
文覚上人というふうな話もありましたけど、洒水の滝、まさに、その文覚上
人が100日間、滝に打たれた荒行をしたというような話もあるわけで、そう
いったプラスアルファ、付随したものも同時に発信していくことによって、
歴史ファンも見に訪れてくれるのかもしれないですし、そういったいろいろ
活用して取り組んで、そして地域の方も絡めて、地域の活性化、にぎわいを
つくって、できれば経済面のサイクルですか、そういったものをつくって、
継続してにぎわいを上げるような、そういう取組の、実際に行政が直接やる
ってわけじゃないんですけど、連携して、サポートして、そういった取組とい
うのは、今後必要になってくると思うんで、その辺は、積極的にやっていっ
ていただきたいと思うんですけど。

やはり今回、件名としてね、地域活性化というところで、やっぱりコミュ

ニティが必要だ、そこがしっかりしてくると、町が以前から言われている自助、共助、公助の部分の共助、ここがしっかりしてくると。災害時にそういったところにも、やっぱり連携とか、そういうところ、地域の関わりというところが、また行政との連携というところも、そういうところでしっかりしていくのかなというところで、やっぱり地域のコミュニティをつくって、そこを、なかなかつくれと言って、つくっているところもあるでしょうし、連携もしているというところでしょうけど、さらにやっぱり連携等が、地域のコミュニティをよりよいものにしていくというのが行く行くは持続可能なまちづくりにというところに行くと思うんですね。

そういった部分で、最後に、地域活性化についての思いを、改めて町長、考えがございましたら、お答え願います。

議
町

長 町長。

長 おっしゃるように、要するにどういうふうに情報を発信するか。そして、受け止めるほうがどういうふうに捉えるかというのが、私は非常にこれから大事だろうというふうに思っております。

今現在、例えばインフラで駐車場の問題とか、道路の町道の問題とか見ますと、やはり土日の10時頃とか、そういったような一番混む時間にお客さんに来ていただいて、実際混んでしまってるというのが今の実態。ですから、それ以外の時間帯は空いてるわけですよ。平日であったり、朝方だったり、夕方は、割とお客さんも少ない。ですから、広報するときには、アナウンスするときには、そういう時間に来てくださいという案内も当然あるというふうに思っております。

それから出し方ですけど、洒水の滝の何ていうんですか、我々は今まで大体69メートル、70メートルぐらいある一の滝が一番メインですから、ありますけど、例えば、今月号の「足柄乃文化」には3段の滝、2段目が16メートルですか、3段目が29メートルとか何メートル。合計で110メートルの滝ですというふうに書いてあるわけです。

私はそういうような発信をしなければいけないだろうというふうに思っています。

ただ単純に、一の滝の70メートルぐらいが、見るところではそれが一番き

れいなんですけど、滝本来としては、3段の滝で110メートルというのが正確な伝え方ではないかと。そういったようなことを、やはり正確に伝えながら、お客さんに理解していただく。そういったことが大事ではないかと。

また、先ほども、前のD52の話でありますけれど、やはりその中でも、足柄乃文化にも山北町の鉄道文化として、鉄道をつくったその当時の鉄道遺産が山北町には非常に多く残っているというふうに書いてあります。ですから、そういったことは、今、日が当たりませんが、実際すばらしいものが山北町にはたくさんあると。それをつくるために大勢の人が知恵とあれを集めながらやられたというようなことがありますので、そういったことも含めながら、山北町をどのように皆さんに発信していくかということが、非常に私は大事だというふうに考えております。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 最後にというふうな、総括的な御意見をいただきましたんですけど、洒水の滝だのD52ですとか、その思いが強かったみたいで、その辺が強調されて御回答いただいたみたいですけど、やはり持続可能なまちづくりにはやっぱり地域活性化が重要だ。その部分に対して、町長の考えをお聞きして終わりにしたいと思うんですけど、いかがでしょうか。

議 長 町長。

町 長 持続可能というのは、やはり私の考えてるのは、やはり人口というくくりではなくて、やはり若い人たち、そしてお年寄り、高齢者も含めて、住んでよかった。そして、またここに住みたい、来たいというようなまちづくりではないかというふうに思っております。日本全国、今、少子高齢化で人口減少でございます。こういった中で、人口減少が本当に問題なのかというようなことは、もう一度考えてみる必要があると思います。

確かに、人口減少というのは、非常に我々にとっては大変なことでございますけど、本質的にはそこではないんだろうと。やはり自分たちの町なり地域をどのように次に伝えていくか。そういったために自分が何ができるかというようなことで、世代間が非常にコミュニケーションが取れて、そして、それが伝えていくことが、町にとっては一番いいことで、単純にただ人口が少なくなってくる。これ自体が本当に問題なのかというようなことは、私と

しては、もう一度、考えてみる必要があるというふうに思ってますんで、ぜひとも山北町で生まれ育って、そしてまた高齢者にいろいろな事情で山北町に住む方もいらっしゃいますんで、そういったときに山北町の誇れるような、そんなような町にしていくことも大切だろうと、私は思っております。